

## 学校関係者評価様式9 【評価報告書】

令和元年8月16日

呉竹鍼灸柔整専門学校  
校長 村上 哲二 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 戸畑 智秋

### 学校関係者評価委員会報告

平成30年度自己点検・自己評価結果に基づき、下記のとおり学校関係者評価を実施したので、その結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 齋藤 武久 (公益社団法人 神奈川県柔道整復師会 会長)
- ② 大淵 真 (社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 会長)
- ③ 秦 宗広 (公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長)
- ④ 川名 和明 (川名治療室 院長)
- ⑤ 佐久間 裕之 (常楽鍼灸整体院 院長)
- ⑥ 阿久津 弘宣 (なおしや はり灸整骨院 院長)
- ⑦ 木ノ内 秀効 (田子浦鍼灸接骨院 院長)
- ⑧ 鈴木 昌子 (在校生保護者)
- ⑨ 岩井 美弥子 (卒業生)
- ⑩ 戸畑 智秋 (ちあき接骨院・ちあき鍼灸マッサージ院 院長)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和元年7月17日 (呉竹鍼灸柔整専門学校 7階・基礎医学実習室)

第2回委員会 令和元年12月予定

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

## I 重点目標について

### (1) 就職支援体制の構築

キャリアガイダンスや企業説明会の開催を通して適切に就職支援を行っている。一方で、一昔前は開業志向の強い社会人学生が大半であったため就職指導の必要性は高くなかったが、今は就職経験のない若年学生が増えてきているため、単に資格取得を目指すだけではなく、自立した社会人として卒業させていくためにも、就職活動のノウハウや社会人としてのハウツーを教育していくことも求められる。また、学生1人ひとりの就職に関して、教員が日頃から声がけするなど積極的に関与し指導していくことで学生の主体的な就職活動が促進され、就職率の向上につながると考える。同時に、学生の就職指導にあたっては、就職先となる治療院や医療機関、介護施設等と積極的に情報交換や意見交換を行い、就職に関して詳細情報を把握しておくことも必要である。

### (2) 事業計画及び予算に基づく学校運営

学校運営及び教育活動は、事業計画に基づいて行われている。今後は内容の精度を高めながら、予算との関連づけがされることが望まれる。また、教員組織において、事業計画と予算の意味を十分に周知し、内部での浸透と共有が図られることを期待する。

### (3) 医療人としての人間形成と臨床教育の強化

法改正を受け、いち早く学外の医療機関、施術所等での臨床実習の充実化に向けて取り組まれており、実践的な教育の中で医療人としての資質向上及び臨床力向上につながるよう今後の成果を期待する。また、中途退学に直結しやすい成績不良や修学意欲の低下も関連する課題として取り上げられていることから、初年次教育の在り方についてさまざまな検討とチャレンジをお願いしたい。

## II 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・人材育成像

教育理念、目的、育成人材像等は教務規程に定められており、学校案内、ホームページ、学校生活の手引き等で広く周知が図られている。

育成人材像は、外部人材から構成される教育課程編成委員会において業界等の人材ニーズを反映するとともに、企業等の協力を得て実習を実施している。平成26年3月には職業実践専門課程として文部科学大臣の認定を受けている。

中期的な将来構想では、第三者評価の受審に向けて準備が進められており、今後の教育の質の担保に向けた取り組みに期待する。

### 2 学校運営

学校運営は理事会及び校長会の決定に基づいて行われ、事業計画に定められた運営方針に従って運営がされている。

設置法人の運営組織は寄付行為に規定する理事会及び評議委員会で構成されており、学校運営の組織は学則及び組織規程に基づいて運営されている。各学校における意志決定は、教務会の議を経て校長が決定している。

人事・給与については、新しい人事評価制度の導入が検討されており、教職員の適正な評価と人材育成につながることを期待するとともに、組織の活性化にも役立てていただきたい。

情報システム化については、姉妹校間の学内ネットワーク（VPN）が構築されており、学生募集、就職支援、成績集計、経理処理等においてもオンラインシステムが導入され、業務の効率化や姉妹校間の情報共有化が図られている。情報セキュリティへの対応については、インターネットの出入口に専用のセキュリティ機器が設置され常時モニタリングされており、外部からの攻撃や学内の情報漏洩に対して対策が施されている。

### 3 教育活動

教育活動は、教育目標を達成するために策定された教育方針及び育成人材像等に基づいて展開されている。また、課程毎に教育課程編成委員会を開催し、外部の意見を参考にしながら、業界ニーズとリンクするように授業科目や教育内容等の見直しがされている。教育目標、教育方針及び育成人材像等は、ホームページ・パンフレット・学生便覧等により広く周知に努めており、具体的な到達目標及び授業計画については、シラバス

において明示され、学生と共有化が図られている。

一方で、到達度に達しない学生（補習等の対策は十分行われているものの、解剖学・生理学の基礎的な知識が定着していない学生）に対しては、小テストを繰り返すなど、こまめな習熟度の把握とそれに基づく個別の指導なども検討が必要と思われる。また、臨床に直結する科目や知識は、早めに理解させておくことにより、学ぶ必要性を学生自身が感じてくれることを期待したい。

授業評価については、学生による授業評価アンケート及び学生満足度調査を毎年度実施し、教育活動の成果の把握に取り組む一方、これらの課題の改善については今後の検討課題となっている。併せて、教員相互の授業参観の実施もお願いしたい。

成績評価及び進級・卒業の認定は規定に基づいて適正に行われており、資格取得の支援体制も万全である。さらに、国家試験が不合格であった既卒者向けのフォロー体制も充実しており、特に Kuretake 塾の合格率は全国の既卒者の平均を大きく上回る成果を残している。

教員の資質向上については、学園内に設置された教育センターによる FD 活動、学校協会主催の教員研修会、学会・業団等の勉強会に組織的に参加することで、教員の能力開発、スキルアップに努めている。

#### 4 学修成果

学修成果のうち、就職に関しては、キャリアガイダンスや企業説明会の開催などを通して就職支援が行われており、平成 30 年度卒業生の就職率は 93.9%と高い水準を示している。

資格取得は「全員合格」を目標として国家試験の対策と指導を行っている。平成 30 年度の卒業生の国家試験合格率は、あん摩マッサージ指圧師 98.1%、はり師 98.7%、きゅう師 98.7%、柔道整復師 90.9%と、いずれも全国平均を大きく上回る実績を残している。

卒業生の社会的評価の把握については、校友会組織「呉竹会」、就職先及び実習先との連携や卒業生の取材、関係団体が主催する学術大会等を通して卒業生の社会的評価や活躍状況の把握に努めている。

#### 5 学生支援

学生支援のうち、就職支援については、学生の主体的な就職活動を推進していくため、学校組織の中で就職部門を明確にし、学生に対して周知していくことが望まれる。また、治療院や業界等との連携の中で、採用情報や卒業生の活躍情報等を学内で共有していく

ことも就職指導に有用だと考える。さらに、若い学生が増えているため、履歴書の書き方や面接指導などの就職セミナーの開催、社会人としてのマナー教育などにも注力していくことが望まれる。

退学率の低減については、成績不良や出席不良を発端に退学につながるが多いことから、早期の学力把握、個別面談、補習等の対策が行われている。平成 30 年度の退学率は全体で 7.2%であった。基礎学力対策や学習方法の指導など、引き続き粘り強くさまざまな方策を検証していただきたい。

学生相談に関する体制では、各学年ごとに担任・副担任が置かれており、学生が相談しやすいよう複数の教員で相談に乗れる体制が敷かれている。学生の心理的なケアに関する専任カウンセラーの設置についても今後検討されることとなっている。

経済的支援体制では、学校独自の奨学金制度、授業料減免制度、特待生制度が設けられているほか、2020 年度から国が行う高等教育の授業料等負担軽減制度（大学等の修学支援に関する法律）の認定を受けるための申請準備が行われている。

学生の健康管理においては、法令に基づき毎年度健康診断及びレントゲン検診が行われている。また、校内や実習先での万が一の事故に備え、学生傷害災害保険及び医療分野賠償責任保険にも加入されている。

課外活動の支援では、学校生活の充実化の一環として、サークル活動の奨励に取り組んでいただきたい。

保護者との連携体制では、保護者会の開催など保護者との交流の機会を設け、教育活動の課題等について意見交換を行うなど、相互理解やが必要な時代になってくると考える。

卒業生への支援では、校友会組織「呉竹会」主催の講演会や懇親会が開催されている他、卒後臨床講習会が定期的に行われ、卒後のキャリアアップ支援が行われている。

## 6 教育環境

校舎の施設・設備は、設置基準及び関係法令に基づいて、教育上必要な備品が備えられている。平成 30 年度には全館の照明設備が LED に変更され、教育環境のエコにも取り組まれている。

学外実習では、法令改正後、全国でもいち早く学外臨床実習の指導者を養成する講習会を開催するなど、学外施設との連携を強化し、学生の臨床実習の充実化に向けて取り組まれている。

防災に関しては、消防計画に基づき防災訓練を実施するとともに、災害時における飲料水、非常食、その他の防災用品が備蓄されている。学校の安全管理体制では、学校安全計画に基づいて適切に管理されている。一方で、危機管理マニュアルの内容が古くなっているため、昨今のさまざまな事件・事故に対応できるようにマニュアルの内容を見

直すこととなっている。

## 7 学生の募集と受入れ

学生募集は、神奈川県専修学校各種学校協会の入試倫理要綱に従って適切に実施されている。

学生募集活動を効果的に実施するために、ホームページ、SNS、学校案内、WEB媒体等を活用して積極的に情報提供がなされている。また、高校進路ガイダンスへの参加、高校訪問、学校説明会の開催、個別見学会への対応など教職員総出で精力的に取り組まれている。一方で、受験生の減少により、入学者の学力の担保が難しくなっていることから、入学試験の在り方や入学後の教育について今後の対策が必要である。同時に、学校経営上、受験生の確保も考えていく必要があるため、売りとなる教育内容（他校との差別化）や付加価値の提供などについても検討していただき、受験生の確保に努めていただきたい。

## 8 財務

借入金がなく繰越利益金もプラスで推移しているため、中期的に安定した財務基盤となっている。財務状況については理事会にて監査を受けたのち、ホームページに財務情報を公表している。

平成30年のカリキュラム変更に伴い、経費負担が増大していることから、2020年度から新しい学納金体系を適用することとなったが、入学者数の減少等により減収傾向にあるため、持続的な収入の確保や経費の節減等について引き続き努力していただきたい。

## 9 法令等の遵守

関係法令に基づき適切な学校運営がなされている。コンプライアンス、ハラスメント、個人情報の取り扱いについては、研修を通して啓発を行っている。インターネットセキュリティでは、サーバーに専用のセキュリティーゲートを設置し、外部からの不正アクセスやデータの流出を防ぐとともに、ホームページの安全性を担保するため、平成30年度にセキュリティ認証（SSL化）を行った。

学校評価については、自己点検自己評価の結果に基づいて学校関係評価が年2回実施され、教育活動及び学校運営の改善の取り組みが行われている。また、その結果についてはホームページで公開されている。

## 10 社会貢献・地域貢献

学校附属の施術所（はり・きゅう・ほねつぎ）では、年間延べ1,500人以上の外来患者の受入を行っている。また、毎年、地域住民の方々に校舎を開放し、チャリティー鍼灸、チャリティーマッサージの施術サービスを行っている。チャリティーで集まった収益は、日本赤十字社を通じて被災地への義援金として寄付されている。

国際交流では、上海中医薬大学との学術交流において短期留学が実施されている。短期留学では医学部での人体解剖などを行うコースが設定されている。平成30年度は、学術交流30周年を記念した式典が開催され、上海中医薬大学から留学生を受け入れて、日本における伝統医療について学術交流を行った。

学生のボランティア活動では、神奈川県体育協会主催の陸上競技やハンドボール大会におけるメディカルサービスステーションのボランティアスタッフとして学生を派遣するなどの支援を行っている。

今後も学校の教育資源を活用して、公開講座やボランティア活動の奨励など学校として積極的な社会貢献をお願いしたい。

以上